

大岡
政談

村井長卷調合机

元岡 徹太郎 編輯

五編
上



八
873
13

夫... 村井... 法... 言... 時... 言... 心... 不...

夫... 村井... 法... 言... 時... 言... 心... 不...

七月十日

元岡維則著
伊藤静齋畫

大岡
政談

村井長庵調合机

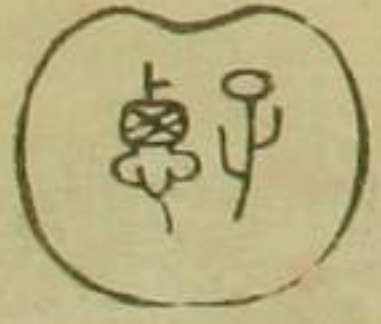
聚榮堂藏版



世之久天下為據之抑之時之失天下家法之
 得天下要立法正無正法之法之國室之安矣哉
 此法事初之元皇維別考書名曰村井老尼
 神合和四部功其而刻之五部亦將強出信序余
 支尚遠山或時有村井老尼老尼色濁酒教人
 割海死藤掛素暴り之強止鳴呼老尼何
 者一布衣耳然河之任名醫也而有此暴り

不可謂可惡矣此時有大皇志為英敏源達大
 度而所於法律者老尼之惡家之刑以路大
 下於村井老尼時一切律法或高呼德川氏之為法
 以法正也大皇氏與有力為世之為人者考り
 以難也支

明治五年正月 日序山形 子德也也



大正政談卷之十三 野史正補



大同文藝集

三

及米堂藏版



大岡政談卷之十三

耳外堂藏版



野女與野

長卷
三河屋丹助

七十餘年垂白翁即令
沽酒在津東亭心悟偏
言尤劇愛彼海新桂健
思惟別也

情洗妹笠貫十



大岡村井長菴調合机五編目録

政談 第五回 割烹店小直士酔客代懲

第六回 孝子の努力慈母の活路と助


第七回 悪謀敗まく兇徒巢穴を失

第八回 貪商の好意病夫窮厄を免

第九回 隠悪の發覚兇兒捕縛代受

第十回 北里乃堤上少年一命を隕

以下次編

出像 伊藤静齋 

大岡村井長菴調合机卷之十三

東京 元岡維則編次

第二十五回 割烹店小直士酔客と懲

大岡村井長菴調合机卷之十三
 第二十五回 割烹店小直士酔客と懲
 第一部長助の忠を謝と誘ひて六右衛門が家に至りお徳母子を
 尋ね始り対面を成さしめしに。お徳も此夜の澄人心當れ少
 かりと云謝し頻りに物厚く扱へば忠を謝も亦余程なり。
 折一の間に世の乃種候とまつ。幾くお徳小直士の出羽
 中へ配るに有るべし。何れも此書の書法如何なる趣意に後
 々や。僕も其文意を嗜み見し心に苦み思ふ如く除きて致し
 存する也。下先書取見しに之を長助傍より抄録云々。

願書い書うりも大切あり。その連ひ有てもそまゝの通せざる事
 多し。我認めてあらせん。行要もも。報意。さましくせん。は。我
 も益無きものなり。面を左に供ひ。おと。語も。左。段。扇。と。揚。く
 膝。と。す。こ。お。出。助。と。さ。り。と。い。い。あ。む。ち。か。り。我。等。ま。の。平。等。と。始。め。と。し。て。
 連。名。と。い。く。れ。ん。又。お。満。了。と。い。ふ。由。解。せ。ぬ。ん。は。長。助。ま。の。平。
 湯。敷。と。端。で。心。持。も。有。り。可。し。俗。語。中。可。謂。解。を。解。る。た。れ。業。お
 及。に。任。せ。る。ん。指。揮。有。き。決。て。不。腹。い。ふ。と。い。ふ。へ。長。助。も。微
 笑。と。様。何。を。お。の。法。則。と。か。う。ん。只。光。華。の。爲。る。所。と。ま。い。へ。て。し。
 と。扱。ふ。の。と。左。も。ご。指。揮。と。委。ね。り。い。ふ。當。に。計。ひ。宜。し。り。太。凡。眼。目
 と。着。る。所。宜。し。り。有。き。と。忠。告。則。及。が。迷。途。返。に。有。る。は。條。事。と。あ

ら。に。書。綴。ん。や。又。降。り。て。認。め。ん。や。何。ゆ。め。せ。よ。公。子。不。審。爲。り。い
 ん。後。も。過。五。年。の。後。に。澄。り。出。る。廉。あり。書。面。と。い。ふ。と。觀。望。成。り。い
 軍。一。と。爲。り。尋。思。と。決。り。意。を。定。め。り。人。我。忽。然。覺。り。見。ん。と。い。ふ。は。
 忠。告。則。及。と。頭。つ。種。々。に。考。へ。あ。ら。ん。と。心。一。決。せ。り。兎。角。ま。の。内。目。も。書。り。れ
 る。長。助。い。ん。に。暇。と。し。り。今。宵。の。内。事。と。い。ふ。決。り。中。口。の。迷。ひ。ぬ。標。不。法。
 と。成。り。あ。ら。ん。と。い。ふ。を。殘。り。已。が。家。に。を。返。り。し。り。左。一。郎。の。意。を。聞。か
 決。定。せ。ざる。に。心。導。き。種。々。に。主。文。と。業。を。斯。の。報。意。に。書。ん。は。如何。
 此。は。々。に。澄。ら。ば。何。れ。と。頻。りに。澄。す。ら。ん。と。い。ふ。未。だ。お。め。と。な。ら。ん。と
 思。ひ。て。忠。告。則。決。せ。り。應。ぜ。る。物。の。始。と。も。大。切。か。も。時。過。て。は。あ。ら。ん。
 そ。の。程。の。有。り。筋。道。と。業。を。明。日。必。ら。し。と。思。と。爲。ん。今。日。教。め。ぬ。は。

と云へば常流のお酒も詞と拵へ一夫車の渡人もも六歳までと
勘考有る。其上の事には為さう。先寛平の事と云へば酒宴を
催して忠義の角と各魚つそ夜にお右衛門徳永と謀つ。忠義の
家に留め左郎諸共海江の物語りに其本を明しり。終て結目小
ふりねばお流もつて密に告る梅の妾今心要くふも魚賣子より
探り見るべさ種一つと出せり。問店へ一年計りあるが西園東決
町の中程に三河屋と云ふ割烹店有る。二舟及川在の考あるは村
井長蔵がもも流もつかり居たる梅子とありはふも又何するん
はの奇説とぞ出さるもあまも家のまに迎付て探事を為し見た
ま元いぬ何にと密語ぬ左一郎すてお忠義の宜しうん使合はるもの

最中に傳へども澄柳も減るつ事だせす出さる又大か。助成るべし。
萬の事を扱ふも忠義の事と附せんが為。今日一杯の酒を振るん
忠義の事も後ひり下。彼元より研ぐんの寝む性乾虫の紙をも能ふ
況初見と云ふ時。迎ま項に徳永の忠義の術と將。忠義の家々
都む。お流が告。割烹店の由來と流つ。宜き探事の掛り
あまは其店に至つ。清酒一盞を酌。又示法を為んと勧むるべ
長助固く辞。夫初る海江の思。難番の入る物へ徳慶の教
成る。お流も云。徳永の頭を振り。否々左に非。心安く成
何るも長流が異るを聞出さる。有り。有益の事ぞあり。柱を勧
む。酒受かへ強ひ誘ふ。左の事と云へば長助。左郎忠義の術が

跡に付随ひ移り歩くと米沢町におり。三河屋の店を窺ひ見ると、
 ては梅の枝思ひ出さるれあり。此の割烹店の名は幸有徳の老人あり。下所
 異りたる性也。おそのの經氣若る由は力有る元夫あり。夜は酒狂
 の愛をお世し事也。耳に今有り。まに知色と感らん。此の心
 を知り能く知りしは心付ぬ。左郎は眉根に小皺を寄せ
 り。頑あがる。男はより。おらうに扱ひ得ません。イヤ入ると則ち
 二個と傳ひ。店に揚り見ると。割烹店の名は幸有徳。賤き
 茶漬飯屋に殊あり。在安の爲は。見せ。此の角彼處
 の間に或は二入或は三四個の賤客等。仏座をわきて酒吞居る。徳
 永の大いに取柄る。店小長助を傳ひませ。何れも。珍味も有る。

固辞せしも。ちをと思ひ。うとも。元より。揮毫の技計有る。其麻
 末あるを。本助に初解方付。ある。二個も。己が前には
 せ。め。婢女を。有。限りの料理と。出さ。自ら。盃と。揚。長助。忠
 告。初め。暫。時。後。に。念。も。無。り。斯。る。お。り。只。之。の。客。人。皆。博
 法。の。見。え。ま。つ。と。ヤ。と。余。米。角。の。二。間。に。大。は。座。を。寄。り。乃
 會。物。と。取。り。酒。杯。を。酌。す。ち。契。し。終。つ。て。麵。の。食。を。掛。ひ。己。に。座。を
 ま。ん。と。せ。し。最。後。より。佳。福。に。親。月。居。る。家。の。運。は。掛。待
 ね。貫。十。三。と。呼。ば。れ。四。客。の。二。個。や。と。擔。返。り。マ。ヨ。す。い。と。日。外。引。取
 敷。罫。の。代。金。あ。る。ん。今。日。の。吾。備。少。の。金。も。有。る。他。の。人。令。此
 更。は。掛。の。新。は。後。序。有。り。又。事。も。有。ら。ん。未。だ。は。せ。よ。と。云。掛

つ回を共にままんとて、主の眼を睥り、術とまり、後夜
 間に合せを以て我を欺詐る。今日こそ、救を乞ふ。清和を乞ふ。此を延
 びて、客入の項を捕ら、引戻さんと、教團の客人も亦念り、捕ひの令乃、後
 こそ、汝に恥か、さる。僧の。同友の前も、怪らざる。巻動。先
 を放さず、幸目見せん。さうりあ。ま。首を腰に、力を
 引倒さん。押合たり。其愈念り。汝は眞座。客あり。能く、此
 戦を、有。法の。曲者。踏。川。捨。此
 力に、件の客を、捨り。依せ。巻を、揚て。教
 同友乃、三個、大に怒り。我等も、教あり。左に、口
 言ら。す。白。結果、果んと、合。鹿

引ら、げ。双。り。摺。付。二人の力に、引倒せ。一個の年寄、仁何、以
 て、座。上。に。捨。伏。せ。ら。し。以。前。の。客。起。揚。つ。又。ま。く。ら。に。お
 け。ま。付。勝。手。に。筋。を。居。る。三。個。の。若。者。を。れ。ん。人。が。腹。た。る。が。遠。奴
 等。を。打。倒。け。し。離。り。出。で。杯。盤。狼。藉。お。る。酒。食。乃。座。を。踏。ま。踏。ま
 て。四。客。を。手。當。り。に。投。り。廻。す。は。是。れ。力。を。得。し。老。更。一。声。さ。く。喚。く
 と。見。へ。一。忽。地。に。返。還。し。二。個。乃。客。を。両。の。手。に。引。捕。へ。足。指。掛。て。押。し
 倒。し。し。此。奴。を。お。挫。け。て。下。知。さ。る。先。京。彼。方。此。方。に。酒。肴。居
 れ。多。一。組。々。の。客。人。等。一。方。か。う。さ。腔。を。消。し。慌。て。表。へ。出。る。も
 有。り。名。目。乃。錢。掛。て。婢。女。等。と。論。下。居。る。も。有。り。又。弱。下。筋。を
 穿。違。へ。客。と。客。と。争。ふ。も。有。り。中。に。も。職。人。を。見。し。三。人。の。客。人

往來の人々何事もなく進々に留り見物のみならず店先の形見を
 あり。子津生の日光も御まゝの腕の勢もよく内外の物騒がしき
 人々方々新しき変にまゝお命四客の聲身の暗き者共は有つらん。之
 忽ち此の場を逃出し見物乃人々に紛れ入り何事ともなく落しけ
 ち。家の男はハッレ逃出たる者有とまの敵二個も追まを逃りて捕へ
 ち。あそこ聞々一個が表へ馳出た血氣盛の若人等海先の者ハあく。
 有合棒を右手に掲げ續て表へ飛出たり。は物共は守りのた
 鄰家の主人二人の男を将々強来りお合為体を見まより慌て
 男等に中知をせし。事は皆論じたるを明らうに分解らん。怪我
 退失者三軍しるま。都より入りし声を揚げ。極し合はるるを

故さ一も頭をなげしへ止むとて様もさるる客扱をせし。禮謝を述
 透を見合あちり。や逃去りぬ鄰家の主人いぞと見ま大に呆
 也。且腹をさう我氣乃毒に思ひ事の思白と分解はせんとす。に
 逃るハ何事をも物を辨へざる。自決あり捕へまると男等に中知を
 駭け。丹助は急に制し。め我等思ひに人乃奴原と投り倒し
 る。原より逃奴等も家と無さる。頼乃博佐も我氣も男
 氣も有らま。斯に扱ひと更らまを一通の起承悟り申さん。今
 の先逃出せ。奴も存と妹星の費十とせざる。散子打ちも。橋場
 居たり。勝の三人ハ目影はく。皆持付居る者共に有らん。件
 道具屋の世渡りを為し。居る。愛買証書りの序。殺後店にまきり



八
 同文
 卷之十三

聚栄堂蔵版



州阿阿請判之十三

聚栄堂蔵版

飲食せり我も日不用の敗器直三分けりの物と引取らしたるに。其日
 拂の金儘に無き。得の敗器を我に借つて持返せり。其後六日其日
 にも不都合あり。とて。拂金を置り。今日我店に立寄るから。其令
 出さむ。とて。返ら。とて。借ら。とて。情事に金有か。とて。此後とて。虚を
 いらひ。氣の毒とも思ひ。参勤の三個と始め。是腰乃利。兼る。私
 お投り。も。と。ば。三分の拂金。指に振。も。腹愈。い。落。と。と。撥。む。り。
 ち。腕。乃。血。を。押。へ。と。重。し。く。物。語。ま。は。都。の。ま。い。心。に。ま。ま。お。も。
 氣の積。ま。老。夫。か。高。貴。ふ。い。生涯。乃。損。じ。と。思。ひ。と。と。左。有。ぬ。体。に。も
 て。か。一。酌。は。物。借。せ。く。情。実。々。分。解。なり。左。右。の。奴。取。あ。し。と。扱。ひ
 せ。も。あ。り。一。物。と。免。に。自。事。落。く。目。出。資。の。り。と。お。お。ひ。り。私。を。留。め。り。

利導と云返らぬ。赤井方の間。高貴志。南等。が。酒。食。け。と。毀。破。
 せ。二。個。乃。醉。寢。左。右。が。痛。不。成。勢。を。折。れ。左。右。の。角。に。引。取。ら。と。
 つ。論。事。理。費。を。せ。と。法。其。乃。乃。退。去。と。せ。と。始。め。乃。母。も。似。せ。び。を
 出。さ。と。く。只。管。り。効。解。粒。一。か。り。中。路。ま。る。と。個。の。乃。作。位。を。も。扱。入
 中。路。ま。る。と。扱。入。た。と。申。法。ま。る。と。扱。入。と。罪。ま。る。と。扱。入。と。一。結
 目。と。も。扱。入。と。扱。入。と。扱。入。と。人。に。傷。り。逃。ん。や。ま。ま。る。と。扱。入。と。扱。入。と。
 非。も。何。れ。も。と。群。の。社。使。ま。る。と。扱。入。と。今。日。教。へ。ま。る。と。扱。入。と。陶。器。を。毀。破。衣
 履。と。引。裂。た。る。僕。金。其。相。當。と。計。算。と。赤。海。に。心。は。け。と。と。扱。入。と。扱。入。と。
 共。三。個。の。者。の。方。ま。る。と。扱。入。と。扱。入。と。扱。入。と。陶。器。の。け。損。と
 毀。破。の。者。の。志。を。用。と。討。伐。を。成。し。毀。損。の。儘。令。三。田。を。分。と。扱。入。と。扱。入。と。

湖に此の湯を洩せし人の跡を酒に漬るの勢ひも抜け口の内に溢るる
 つぶさる。出づる。山崎の湯とて。湯女有り。早とて。女子に。酒を
 ぞも。至りて。淫術を。生債を。景前より。一個の。婢女。表口。は。客入
 と。論。食。其。黒。白。更。に。分。た。る。也。奸。曲。の。輩。終。極。に。終。ら。し。酒。食。の
 穢。を。を。す。毒。を。入。り。欺。り。ま。ま。ら。ん。と。せ。り。掛。合。を。婢。女
 兎。角。に。云。は。し。ま。す。之。の。損。を。に。成。ん。光。景。を。客。入。奥。野。ハ。自。り。表。皮。を
 客。入。向。て。掛。合。を。成。し。必。死。況。は。せ。し。一。世。文。徳。の。酒。食。料。を。掛。合。せ。り。
 斯。も。ハ。最。前。掛。合。一。婢。女。大。に。腹。を。ま。ち。け。の。客。入。業。の。代。物。と。食。俵
 さん。と。て。ま。り。し。と。と。揚。ぐ。る。あ。ま。ん。と。な。る。と。ま。ま。の。急。に。刺。し。止。め。
 ける。御。侍。も。心。乃。人。に。拘。り。懸。ぐ。ハ。後。店。の。不。為。なり。後。掛。合。も。ら。ぬ。ハ

掛。合。は。改。ま。り。し。と。傳。ま。の。言。へ。違。う。し。の。世。は。是。を。人。連。入。の。有。り。年。は
 駿。ぎ。の。中。客。入。も。作。天。帝。も。是。液。掛。合。し。事。も。思。ひ。連。入。り。か。ん。
 必。ら。も。後。さ。り。や。と。並。居。る。人。の。前。と。儀。ひ。お。知。つ。く。客。を。送。り。ゆ。
 たり。後。水。の。扱。ひ。方。と。見。し。大。に。感。動。コ。珍。ら。し。と。秀。身。の。婢。女。有。り。
 是。等。の。女。房。も。ハ。斯。る。終。極。も。起。る。ま。じ。と。婢。女。に。笑。ひ。笑。掛。り。ま。
 者。も。と。常。懐。と。し。む。竟。に。終。に。招。き。寄。り。て。物。を。取。り。し。る。の。出。所
 かん。と。問。て。一。方。の。命。と。紙。に。包。み。酒。席。の。表。中。と。あ。け。り。已。に。終。極。の
 て。強。り。一。帯。入。後。水。等。乃。と。個。一。り。外。に。無。く。外。面。に。ま。ま。る。見。物。も。人
 へ。人。づ。ま。ま。り。今。ハ。終。り。し。後。の。体。は。ぬ。れ。ど。ま。の。老。人。亂。を。た。る。白
 髪。自。ら。後。掛。合。も。後。水。も。あ。に。難。と。所。に。見。ぬ。只。今。の。強。き。起。り。ハ

僕かき、氣の毒く、らひやうも、いふに、平に故、らるると、初解、在、一
 郎、爺、て、申、せ、至、る、店、の、如、き、酒、を、賣、て、人、の、心、を、慰、ま、し、む、世、渡、り、能、く
 心、を、結、さ、ま、ハ、換、火、の、もの、多、く、人、陣、で、酒、食、の、商、業、ハ、結、核、の、種、入、る、も
 の、く、年、に、似、げ、ゆ、き、事、が、さ、さ、い、ま、い、類、に、頭、を、擡、き、ゴ、ハ、僕、が、生、徒、中、で
 怨、氣、あ、る、守、に、体、を、食、せ、し、ま、し、古、を、立、退、ま、此、の、地、へ、流、し、ま、す、本
 の、起、原、ハ、争、論、り、お、た、り、曼、見、く、項、の、上、に、太、刀、海、乃、痕、有、り、と、誓、言、を
 捨、て、け、見、せ、ら、れ、忠、勇、長、助、等、も、其、由、來、と、問、尋、ね、昔、物、が、ハ、牌、も
 ち、う、ん、吐、し、つ、ら、さ、し、ま、し、と、お、む、ま、笑、み、お、話、を、極、く、是、儘、に、し、り、物、を、川
 上、に、せ、き、し、一、先、右、ハ、丹、取、と、呼、び、り、海、者、に、作、是、と、さ、る、者、有、つ、と、成
 時、を、歌、乃、今、飛、を、生、學、し、た、為、一、聖、物、と、教、字、個、餘、り、持、來、り、是、と、要、求

んに金無け、是、六、千、金、と、教、令、一、兵、一、物、は、は、其、較、計、と、す、く、に
 見、せ、物、に、為、ん、企、と、く、傳、へ、辨、金、成、り、さ、る、お、高、と、引、ま、る、物、米、一、て
 其、云、如、の、金、と、傳、へ、海、一、ぬ、然、る、に、日、と、經、ま、で、今、も、持、來、ら、ぬ、亦、川、邊、の
 聖、物、も、派、さ、ぬ、吾、汝、彌、癢、の、落、付、ま、ぬ、隠、す、場、而、と、探、り、ぬ、何、の、細
 玉、物、破、り、の、毀、破、し、た、り、後、い、せ、い、為、つ、ま、も、平、山、の、令、は、諸、倒、さ、ぬ、お、け
 ま、事、と、為、て、な、り、と、悔、し、非、肉、事、改、起、さ、く、他、差、ハ、他、心、を、り、犯、令、を、較、計
 せ、一、為、他、文、を、郎、お、ど、ら、る、村、人、我、が、善、物、と、毀、損、せ、し、と、擡、り、守、て、我、家、に
 押、來、り、彼、の、聖、物、ハ、作、爲、人、の、有、に、非、ず、我、が、も、尖、令、と、企、一、較、計、と、さ、す、そ
 大、湯、の、精、込、ぬ、我、中、に、は、ず、く、ま、し、と、事、海、邊、を、つ、の、り、後、に、一、夜、大、鬪、争、と、爲、
 り、項、乃、海、の、時、切、ら、ま、し、一、互、に、死、人、ハ、無、け、と、も、一、死、も、な、し、と

負り我も身を負て是より土地の人に情を結ばれ我と交接するもの
 あり新る様も大地に飛入りい池にひて住居いんや。そ村を去る邊
 後久々田原に住と年老たきと大い日の慈恵と義を別世むべき
 と返てこの人込の中入中たり。と書物傳りて世に忠義剛毅とを拍
 相い彼の細工物製成が毀破せしに有り。丹助友と他義も。継母の
 多移ぶが兄古也をまらん。我も望物ゆく。他義に預と掛ら
 せたり。悟もいふ大いにあやう。あの中々を事し傳りたり。且
 おおが兄あるを知り。涙も因縁有ん。僕も事多き。いと掛りては
 池に事馬のへに遠るが。通う物傳りて。さうせうも。いふ。と助友
 と郎も小藤と進め。奇も。一と。勝も。さ。居たり

第廿六回 孝子の努力慈母の活路を助く

短慮切と成も世の法も宜ある。我の丹助。廉直の性なり。然るも
 法も恰切。短慮乃一失無う。若く巨業に富も成ま。産も。為
 人に争論為る事。の。多。竟。人。理。を。失。く。多。年。住。居。多。小
 田原の城下。もの。移。移。も。事。の。多。き。なり。不。圖。も。志。も。用。と。物。産。の。回
 幸。符。命。も。見。世。物。乃。事。実。問。の。尋。る。事。願。り。之。け。れ。志。も。剛
 中。振。其。製。器。高。元。我。が。上。方。より。求。め。事。も。多。く。三。妙。に。く。不。圖。作。死。を
 と。心。安。く。も。り。達。て。件。乃。細。工。物。望。も。に。申。り。十五。金。に。志。を。定。て。譲。り
 せ。志。も。不。人。情。多。く。五。五。の。金。を。付。小。金。を。派。金。を。渡。す。ソ。ハ
 如。此。々の。事。實。あり。と。其。の。回。事。と。物。傳。り。後。に。浦。和。乃。驛。少。く。速。く

の毒に有きと今日返一々まゝと名を左郎経言ふ。又鬼も前もく愈る
し。我も家と見せしむ。今宵は梅へ返さず。四日速く和屋が家に宿ん
し。侍形有きと又長助に侍語して去る。鳥つあみの等にも此の御
を道へしめ。明日は面会を約して右と左に別れしけり。家に居掛る子
道之助は今年湖へ十二女に成る。が性又は若らむ。お母に
母に侍るこゝろは先妻あり。父は七人と成り。母子三人を母の世帯を
受け。其傍にさやまの家を借雨露漬。惣家買好つと。飲の烟を立
へ。生業とて初め男也。婦女の身一つ。の果敢々々を極む。お母
も平を始め。胸有り有るに非れ。母子を養ひ。侍候もせ。お母の
左郎史婦が憐れ。拍く送り物をも。便とま。の。是。お満も。さ。知。り。

世渡りの営も。店おのりの水菓子と。又茶汁の候。侍り。其日乃。錢を取。年月を送り。中々に心易く。道。白。二。日。も。お。母。に。困。苦。に。迫。り。景。光。如。童。あ。づ。も。道。之。助。に。見。兼。成。る。日。母。を。勸。め。其。方。に。應。可。し。預。り。貴。物。と。替。へ。め。館。菓。子。或。は。枝。豆。汁。類。を。推。け。道。之。助。の。街。間。と。賣。赤。ひ。も。終。あ。づ。も。錢。儲。け。事。を。朝。之。助。に。先。言。は。し。母。に。入。る。孝。心。と。感。づ。つ。日。を。長。助。が。左。郎。の。侍。言。を。ま。つ。り。新。屋。へ。道。之。助。商。ひ。り。返。り。見。ま。は。お。満。の。裳。は。袂。を。押。ひ。や。襦。山。に。招。き。あ。り。お。満。に。纏。り。好。ま。見。た。そ。有。り。お。満。が。日。と。南。に。活。け。た。り。は。く。妻。も。杖。柱。と。思。ふ。を。可。愛。や。交。交。回。生。と。お。び。と。も。せ。だ。母。が。妻。し。と。思。ひ。あ。つ。て。斯。と。こ。の。

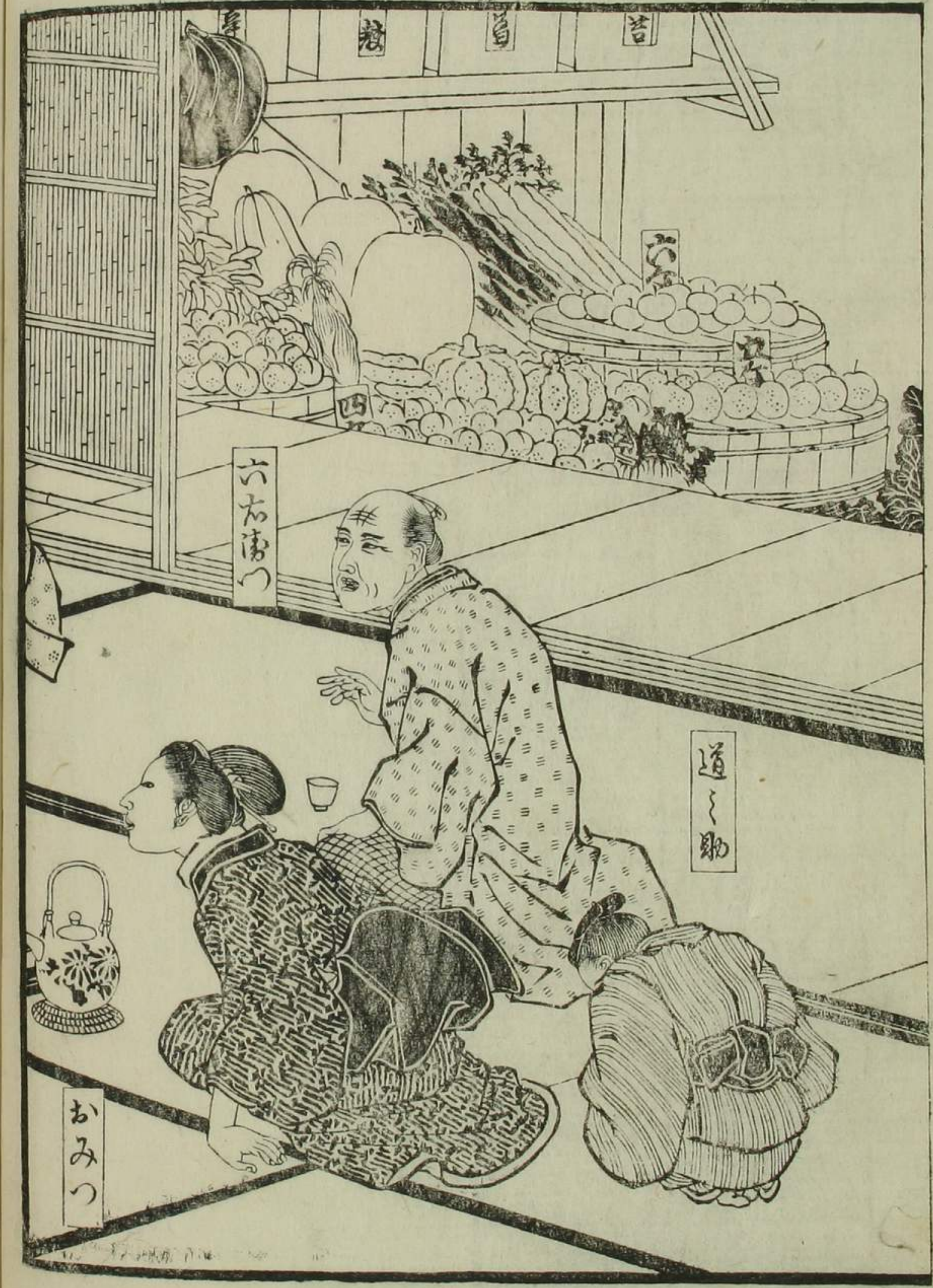


お満が宅に
徳永忠玄
等出海と
商破と

大岡政談卷之十三

三十五

長栄堂 武友



大岡政談卷之十三

長栄堂 武友

骨折命つとせに居ゐらる。今頃いまごろは仕官し官して入道いんみの武士ぶしも成なり。中なかがハ字あざ文武ぶぶ藝ぎの精せいたいて皆みなの業わざとも為なる可べし。可惜こくせき種たねをたの仕しに盛さかる。成なりて
 事こともあく。親おやの教おしる甲斐あひなく。恥かたじけなくけしに思おもふ事ことも。世よの因縁いん縁
 其その方の不運ふうんと諦あきらめておめて。通かう之助のすけ白しろ天てんの毒どく人ひとと亡なる。死しなれ
 べし。業わざは仕官し官に成なるも有あらん。今いまは。大だい生せいをせ。後のちは。為なる。刑けいも又また有あり
 こと。慰なぐさめ。明日あしたは。又また有あらん。いかに。成なる。當あたり。つ。あ。速すみく。故ゆゑ。食たべ。て。死し。んで
 ち。と。う。ま。て。後のち。極ごく。成なり。鮮あざけ。き。鬼おにの。老らう。付つけ。こ。ハ。先さき。証しやう。都と。う。苦くる。み。く。う。い。ち。
 思おもふ。好この。く。食たべ。ら。う。あ。れ。六む。孩ご。し。を。う。く。有あり。乞こ。活かつ。く。食たべ。ら。う。と。う。い。ち。
 中なか。へ。閑い。む。道みち。の。小せう。サ。カ。お。悦えつ。び。て。信しん。に。向むか。ひ。多た。心しん。付つけ。け。い。今いま。日ひ。ハ。未み。嘗じやう。う。い。

後ごの更さらざらば。母はは子こと。夜よの。腹はらの。有ある。ま。ま。と。母はは親おや。夜よ。食たべ。の。食たべ。の。い。
 として。我われの。と。要いら。ぬ。た。る。あ。な。を。有ある。べ。と。推おし。量りやう。と。六む。道みち。名な。に。著しやく。
 取とり。兼かね。つ。抱いだ。ら。し。と。膳ぜん。押おし。度ど。母ははよ。吾われ。侮おご。り。今いま。日ひ。花はな。主ぬし。の。室むろ。あ。り。園ぞん。子こ。を
 振ふる。節ふし。い。れ。志こころ。と。う。に。食たべ。返かへ。ら。う。あ。れ。ば。腹はら。ま。ま。減へ。ら。る。あ。曾おん。夜よ。の。と。仕し
 事こと。う。へ。食たべ。と。母ははに。勸すす。め。給たま。ひ。垢あか。深ふか。たる。念ねん。を。自みづか。ら。取と。り。取と。り。勞らう。と。あ。ら。ぬ
 と。六む。今いま。宵よ。の。走はし。り。即すなは。ち。せ。ら。ん。と。う。つ。ま。屋や。に。横よこ。柄へい。ひ。前まへ。後ご。も。知し。ら。ぬ。と。あ。く
 と。寐ね。入い。り。お。満み。ち。傍わき。に。有あ。り。我われ。の。鬼おに。の。寐ね。教おし。を。守まも。り。膳ぜん。と。と。海うみ。邊へ。に。
 も。希まれ。を。老らう。け。の。鬼おに。雨あめ。の。降ふ。り。目め。も。風かぜ。の。目め。も。厭いと。へ。る。顔かほ。を。見み。ら。ぬ。あ。ら。ぬ。と
 願ねが。ひ。目め。の。福ふく。を。斯かく。る。男おとこ。鬼おに。持もち。あ。ら。ぬ。母はは。の。と。甲斐あひ。なく。何なに。事こと。ぞ。
 花はな。の。家いえ。に。く。花はな。を。交まじ。へ。と。う。へ。母はは。に。腹はら。を。あ。へ。ん。赤あか。心こころ。あ。ら。ぬ。豈あは。れ。枝えだ

三書りて童もんがらほさそえ後乃愛嬌をたむの童もん大人も及
 ちあ心好り。そ後とほへあぐり。合せむと母に幼む。健氣さと思ひ計
 ちか物の子寒さ。秋も味くそ人阪と合せむ。斯る難儀も去る。新
 悪道道のため。突其身成の常あぐり。陰りそく。形せむ。
 番放る。水鳥の芦間のねぐら。落し。捨る。葉の影も深く。思ひ
 うき林の親子の身と。偽る。岸に寄る浪泡と消ゆ。亡きと。
 幾げ乾くぬ。神を浦端あぐりの。幸濟き。智恵の海も。深くて。深る。ん
 怒り。満つ。海乃。幸は。世の中。世濟り。そ。年。惜も。け。及。男。兒。の。ま。福
 き。肩に。推る。童も。ん。宿の。健氣。さん。澄つ。輝。く。つ。ら。い。ぬ。き。さ。
 目。に。一。下。流。と。童。も。ん。一。ま。く。何。れ。も。業。の。ま。も。も。見。け。た。童。も。ん。送。ま。は。の

年月。殊。さら。大事。と。抱。く。の。胃。世。波。る。道。も。自。づ。と。味。と。残。け。る。の
 み。の。ま。く。一。て。世。に。後。甲。申。ま。も。弱。竹。の。雲。に。折。る。長。さ。つ。ま。と。福。言
 ま。つ。休。持。派。を。拭。ひ。て。消。く。る。燈。と。捨。て。て。身。持。あ。ぐ。り。返。り。ぬ。輝。く
 と。と。く。り。の。世。後。を。前。に。後。人。と。は。明日。は。も。あ。ぐ。り。と。家。老。と。遠。ん。夫。先
 に。り。り。女。と。あ。ぐ。り。の。ま。く。と。自。ら。心。と。戒。め。は。食。費。甚。だ。我。子。の。志。げ。と
 失。か。ん。と。終。て。後。引。か。う。と。も。合。せ。む。合。せ。む。己。れ。も。半。身。も。傍。に。ま。師。
 世。一。膳。の。君。と。侍。の。り。知。地。境。の。月。掛。け。と。あ。ぐ。り。後。里。向。く。見。入。る
 る。に。夜。合。せ。む。の。ぬ。き。バ。も。み。つ。後。見。を。記。す。南。に。あ。ぐ。り。あ。ぐ。り。の。ま。く
 る。と。侍。に。お。ま。部。忠。ま。清。も。連。見。つ。て。其。の。日。に。長。島。と。家。に。指。さ。し
 笑。と。催。し。て。と。河。原。の。後。後。と。清。り。合。せ。む。由。を。種。の。せ。り。し。の。ゆ。き。と

ありに非ざるを今ほするは遠見入今より思徳いさしくまじく流石
 の實を忠を漸が曲に述る性善に長身サリノ扇を開き。コハ出まきさし
 忠を漸を生て胡亂つて飛登魂の火宅の苦くも逃れもせで引出さ
 る。圖魔の庭地獄の法法の人金とも救ふ。其のた遍るはの僅知人知
 るが傳の老助するはけが一肩を繋の元も天宮をり出さ。梅を傳
 傳の南議後と云へど。幾人の一つで雷て云へは。笑と合は左郎
 若に組く悪きなり。今の教役も自らも天津邊の周り其を當
 るたにもの進まん忠を漸を必らむ。苦にるまじくと。雨もあまに流
 も常も谷間の水乃下岬の春は便り有るぬ。度へる雪の周りと云
 のど。長末けき日和に逢るべ。は忠を漸とが厚きを事とて。其の面を忠を

謝頼りに赤恥め救済一乘し。う。其の。後には。思案。謝の字ぬ。
 斯智と云く。六世と云に及ぶ。お満成が真意に感下。日守。任を知らせ
 翫きに徳ありまへ。婦女に關係して。秘事を告し。條のらに記さし。て不
 恥。さらまに齊し。液令るるま。と云へ。長助翁を察す。竟に筆と揮つ
 て。訴状も認め。其文に曰く。赤坂油屋。西長助。忠を漸。家。みつ。中。上。香
 り。外。ま。字。永。七。年。九。月。七。日。出。掛。り。其。の。法。法。中。山。傳。守。極。火。法。法。に
 申。死。法。私。吏。及。于。希。翁。を。節。同。不。村。井。長。助。と。中。西。長。助。と。言。是。れ。と
 述。に。非。ず。人。多。に。掛。り。お。黒。丸。を。場。に。乃。希。翁。翁。の。筆。一。法。控。留。り。付。申
 疑。ひ。を。お。黒。丸。捕。縛。と。云。は。中。山。傳。守。入。秘。仰。付。ら。し。間。も。任。く。宣。死。法。法。の。付
 不。疑。九。控。留。付。ら。し。家。對。の。對。下。一。重。且。以。重。法。店。傳。又。云。右。傳。方。へ

と退りて、斯く此の自執州公忠を、爾と申さざると、懸て之を相し、た人の
 悪と罵り、塵泥を言ひ、は、類の若に、非ざる、容貌、淫眼、忽ち、見ゆき
 り、バ、呆れたる、白根、汝、此、輩の、心、お、宝、永、七、年、八、月、未、方、の、物、長、居、に、赤
 根、根、は、く、透、る、の、由、中、知、の、嫌、色、包、ま、ま、中、上、下、と、有、り、忠、を、爾、に、言
 へ、に、恐、懼、一、脚、に、お、掛、け、短、入、満、ち、中、上、下、所、相、連、神、お、な、り、と、け、り、と、
 公、殿、を、脱、め、付、々、ひ、汝、若、等、の、事、実、知、り、あ、ら、う、其、時、取、り、公、殿、を、左、に、
 く、し、て、只、今、日、不、成、程、を、成、不、成、を、極、ち、追、て、中、上、下、長、居、と、對、決、中、計、を、
 今、負、引、べ、し、と、仰、有、り、日、止、む、患、を、爾、處、へ、山、白、河、と、引、退、す、隠、居、さ、る、
 我、は、居、ち、ぞ、と、返、り、あ、ら、う

大岡政談村井長蔵調合札卷之十三世

